

平成 28 年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産省大臣賞に宮城県・川村 和弘 殿

枝肉単価 15,054 円で(株)丸富商店 が落札

平成 28 年度全国肉用牛枝肉共励会が、10 月 25 日から 10 月 28 日まで、東京食肉市場に出荷実績を持つ 29 都道府県より選抜された乳用去勢牛及び交雑去勢牛 70 頭、和牛去勢 270 頭、和牛牝 160 頭の合計 500 頭で開催され、東京食肉市場(株)設立 50 周年の節目の大会となった。

名誉賞に輝いた和牛去勢の 289 号は、宮城県から出品された川村 和弘殿の出品牛で、全体的に肉付き・均称の良い体型で、肉質光沢に優れ、無駄のない正肉歩留まりで、素晴らしい最高級の枝肉であった。川村 和弘殿は、農林水産省大臣賞、東京都知事賞をはじめ数々の名誉ある褒賞を受賞された。この名誉賞の牛は、父「茂洋」、母の父「安福久」、宮城県産、月齢 32 ヶ月、生体重 899kg、枝肉重量 641kg、歩留 71.3%、格付 A5 (BMS12・BCS3)、枝肉単価 15,054 円、枝肉金額 9,649,614 円で(株)丸富商店により落札された。

各部の最優秀賞は、第 1 部が栃木県・田村 孝一殿の 18 号牛が、枝肉単価 2,615 円で(有)丸金おおつか、第 2 部は福島県・(株)湯浅ファーム殿の 337 号牛が枝肉単価 7,003 円で(株)コシヅカ、第 3 部は青森県・(有)金子ファーム殿の 589 号牛が 11,112 円で(株)中村畜産により購買された。部門別の成績は下記の通り。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第 1 部乳用・交雑去勢	70	932	1,134	734	607	751	460	65.1	69.0	60.2	1,654	2,615	1,371
第 2 部和牛去勢	270	834.9	1,048	674	571	702	441	68.3	74.1	61.5	2,757	15,054	1,997
第 3 部和牛牝	160	697	870	550	471	595	361	67.6	74.9	62.3	2,873	11,112	2,180

本共励会の出品規則第 6 条「生体到着時の体重の制限」により、第 2 部和牛去勢の 25 頭、第 3 部和牛牝で 7 頭の合計 32 頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは 468 頭であった。

大動物事業部

<10 月の相場動向>

10 月の牛枝肉相場は、和牛去勢の A5 が前月比 77 円高(前年同月比 250 円高)、同 A4 が 40 円高(同 154 円高)、同 A3 が 57 円高(同 124 円高)、同 A2 が 103 円高(同 14 円高)となり、交雑種去勢は B4 が 14 円安(同 10 円安)、B3 が 14 円安(同 41 円安)、B2 が 6 円高(同 89 円安)であった。全国と畜頭数は、4,000 頭台が続く安定した出荷頭数となったが和牛・乳用種は減少、交雑種は増加傾向と末端需要が伸び悩む中、相場はもちあい推移した。前月同様に歩留まりや枝肉仕上がりの良し悪しで価格差が大きい状態は続いている。

和牛去勢月平均	前年同月比	前月比	
A5	2,912 円	109.4%	102.7%
A4	2,607 円	106.3%	101.6%
A3	2,447 円	104.4%	102.4%
A2	2,254 円	100.6%	104.8%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比	
B4	1,823 円	99.5%	99.2%
B3	1,682 円	97.6%	99.2%
B2	1,513 円	94.4%	100.4%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比	
B3	上場なし		
B2	719 円		66.8%

<11 月の牛肉輸入量予測>

輸入牛肉通関量	9 月	前年同月	前年同月比	
フローズン	豪州	12,496	13,632	91.7%
	米国	8,629	12,733	67.8%
	その他	1,994	2,670	74.7%
	合計	23,119	29,035	79.6%
チルド	豪州	9,117	10,000	91.2%
	米国	9,175	6,457	142.1%
	その他	890	585	152.1%
	合計	19,182	17,042	112.6%

出典：食肉速報

財務省の貿易統計による 9 月の牛肉通関量は前年同月比 8.2%減の 4 万 2,301 t と前年を下回った。チルドは 2 カ月連続で 2 万 t を割ったものの、豪州産を除く主要国で増加となった。フローズンは前年の大幅増の反動から 3 割ほど落ち込んでいる。内訳については上記の通りである。

農畜産振興機構による 11 月の輸入牛肉入荷量は、4 万 600t(前年同月比 9.2%減)としている。うちチルドが 1 万 7,900t(同 2.6%減)、フローズンは 2 万 2,700 t(同 13.5%減)と前年実績を大きく下回ると予測している。

<11 月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構の 11 月の出荷予測頭数によると、前年同月比 0.8%減の 10 万 5,400 頭と予測している。和牛が同 5.3%減の 4 万 7,500 頭、交雑種が同 9.7%増の 2 万 3,100 頭、乳用種が同 1.1%減の 3 万 3,400 頭としている。交雑種は酪農家の黒毛交配率の上昇により増加に転じ、和牛、乳用種は今後も減少傾向が続く見通しである。

東京食肉市場の 11 月と畜頭数は、8,580 頭を予定。

<11 月の牛枝肉相場見通し>

11 月は年末を意識した手当買いが進む時期ではあるが、牛枝肉相場の高値を受けて末端需要の低迷が長期化する中で大きな期待は持てない。しかしながら、本格的に鍋物需要などが活発化する時期であることや、銘柄牛を中心とする歳末ギフト用手当などにより安定した需要は見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,800~1,850
A4	2,550~2,650	B3	1,650~1,750
A3	2,400~2,500	B2	1,500~1,600
A2	2,150~2,250		
乳牛去勢			
B3	1,150 ~		
B2	1,000 ~		

小動物事業部

食肉流通統計によると、9 月の全国と畜頭数は 137 万 7,000 頭(前年同月比 103.1%)となり前年より増加した。また、9 月分の豚肉通関実績は、総量で 7 万 2,354 t(前年同月比 112.8%)と前年より上回った。うちチルドが 3 万 2,124t(同 113.1%)で内訳は、米国が 1 万 8,053t(同 105.2%)、カナダは 1 万 3,024t(同 127.7%)に増加。メキシコが 1,043t(同 98.9%)と減少。フローズンは 4 万 229t(同 112.6%)と前年を上回り、デンマークが 9,769t(同 107.3%)、メキシコが 5,053t(同 116.0%)、米国が 6,304t(同 158.3%)、カナダが 3,333t(同 101.2%)と増加した。

<10 月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3 日	62,500	458	450	724
4 日	64,600	494	476	901
5 日	62,400	480	459	775
6 日	67,100	475	455	894
7 日	66,200	467	453	827
11 日	74,800	481	465	686
12 日	70,100	493	473	899

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 6,800 頭と前年を上回る頭数であった。当市場においては平均 815 頭と前年を下回る上場頭数であった。

9 月の後半に上物価格が 500 円台から 400 円前半まで下落したことと、10 月から出荷頭数が増えることを見込んで、大手量販店が国産物中心の手当をはじめた。これに伴い輸入量を絞り込む事でバランスを計る動きがみられた。当市場の上物平均価格は 478 円、中物平均 462 円と安定した値動きであった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13 日	69,300	487	464	1013
14 日	68,700	472	451	934
17 日	65,200	490	460	796
18 日	69,000	501	474	743
19 日	63,900	472	447	828
20 日	68,100	467	442	828
21 日	67,500	469	458	996

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 7,300 頭と前年をやや下回った。当市場は平均 880 頭と前年と同様であった。

10 月も二週目にさしかかると、ようやく秋らしい気候となり、鍋物需要でバラの荷動きが良化してきた。しかし、全体的に消費は鈍く、量販店では品揃えが国産と輸入物が均衡する状態となった。また、堅調であったスソ物が落ち着いた荷動きとなり、価格も若干下げてきた。

当市場の上物平均価格は 480 円。中物平均 457 円と上旬

と同レベルであった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24 日	65,400	479	458	831
25 日	66,200	502	478	797
26 日	67,700	510	496	636
27 日	68,000	504	476	931
28 日	68,300	501	473	835
31 日	66,200	537	522	654

下旬の全国と畜頭数は、平均 6 万 6,900 頭と前年を上回った。当市場の上場頭数は平均 780 頭と前年を下回った。

気候の落ち着きと共にバラ・スソ物の荷動きは堅調であったが、その他の部位は鈍化傾向であった。

10 月後半となっても 7 万頭を下回る全国頭数となり、輸入量も前年同月比マイナスであったが、消費動向は端境期ということも有り振るわなかった。当市場の上物平均価格は 505 円、中物平均 484 円と最終日には中物も 500 円を突破した。

<11 月の豚枝肉相場見通し>

農水省による 11 月の全国と畜頭数は、149 万 4,000 頭(前年同月比 106.0%)と予測しており、一日当たりの頭数は約 7 万 4,700 頭である。当市場の 10 月の集荷予定頭数は 1 万 8,000 頭となっており、一日当たりでは約 900 頭の見込みである。また、農畜産業振興機構による 11 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 1,800t(前年同月比 109.5%)の予測となっている。内訳はチルドが 2 万 8,800t(同 101.0%)、フローズンは 4 万 3,000t(同 116.0%)の予測である。

また、8 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 7,533t(前年同月比 103.7%)、輸入品は 15 万 8,779t(同 98.1%)となり合計 17 万 6,312t(同 98.7%)となった。推定出回り量は 14 万 1,197t(前年比 106.2%)で前年を上回った。うち国産品は 7 万 2,563t(同 113.5%)、輸入品は 6 万 8,633t(同 99.5%)であった。国内生産量は 7 万 1,438t(同 111.8%)と前年を上回った。

11 月は豚肉輸入量が増加の見込みであり、全国と畜頭数も増加予想と考えられる。また、牛・鶏肉も同様に増加予測となっている。このように肉類全般的に増加傾向な状況ではあるが、気温が下がると共に消費動向も上向いてくると思われる。荷動きとしては 10 月後半から鍋物商材、特にバラが堅調なってきたり、スソ物が安定した需給バランスを継続中である。また、11 月後半からは年末に向けた手当需要が見込まれる。

最近の相場値動きを見ると、上物加重で 500 円台後半が限界値であることが顕著であり、極端な乱高下の相場予測とはならないであろう。よって、当市場の上物平均価格は 485 円、中物平均価格 460 円と予想する。

